

「オオワシ国際シンポジウム in SAPPORO」の開催について

札幌市では、オオワシの生息域にある動物園や研究機関を集め、その生息環境やおのこの果たす役割について情報交換を行うとともに、生物多様性の保全と持続可能な社会の発展のあり方について考える「オオワシ国際シンポジウム」を開催します。これは、希少動物であるオオワシなどを円山動物園で繁殖させ、自然界に放鳥、野生復帰させることに挑戦する「北海道の野生動物復元プロジェクト - オオワシ・プログラム」の一環として行うもの。北海道洞爺湖サミット開催前に、オオワシの自然復元の意義について賛同してくれる人々を掘り起こし、国内外の復元事業への社会的な協力の機運を喚起していくほか、札幌市の自然復元の取り組みを世界に発信することを狙いとしています。

このほか今年度は、オオワシの繁殖地であるロシアとの野生復帰に向けた実務者会議や、繁殖用と狩の訓練用のケージの建設も予定しています。

1 オオワシ国際シンポジウム

(1) 開催日時

平成 20 年 6 月 23 日 (月) 13:00 ~ 16:30

(2) 会 場

コンベンションセンター「特別会議場」(白石区東札幌 6-1)

(3) 次 第

主催者あいさつ 札幌市長 上田 文雄

来賓あいさつ 在札幌ロシア連邦総領事 レオニード L・シェフチューク氏
環境省北海道地方環境事務所所長 浅野 能昭氏

キーノートスピーチ (基調講演)

「円山動物園におけるオオワシの現状と取り組み」

円山動物園園長 金澤 信治

「スコットランドと西ヨーロッパにおけるオジロワシの再移入 - 進捗状況と手法」

ハイランド・ファウンデーション・フォー・ワイルドライフ理事
ロイ・H・デニス氏

「ロシアにおけるオオワシの生息現況とそれを脅かす要因。ヨーロッパ・アジア

地域動物園協会による飼育下での個体数安定のための計画の実績」

オオワシ研究者 モスクワ大学教授 ウラジミール・マステロフ氏

パネルディスカッション

・ファシリテーター (進行役)

北海道猛禽医学研究所代表 齊藤 慶輔氏

・パネリスト

キーノートスピーチの 3 人

環境省北海道地方環境事務所 統括自然保護企画官 坂本 真一氏

元札幌市円山動物園園長 北村 健一氏

(4) 参加費

無料

(5) 定 員

200 人（先着順）

2 オオワシについて

タカ目タカ科、学名 *Haliaeetus pelagicus pelagicus* 英名 Steller's sea eagle。地球上に生息するワシ・タカ類の中でも最大級の体格を誇り、カムチャツカから沿海州にかけて極東の沿岸部に生息。日本(主に北海道)には越冬のためサハリン北部やカムチャツカで繁殖した個体が渡り鳥として渡来。国内最大の猛禽類。主な餌は魚類と水鳥。

近年は、開発に伴う餌資源の減少、森林伐採に伴うねぐら林や休み場の減少、銃猟エゾシカ死体の採餌に伴う鉛中毒などにより個体数は約 5,000 羽に減少、IUCN（国際自然保護連合）のレッドリスト や環境省レッドデータブック では絶滅危惧 類(VU=絶滅の危険が増大している種)に分類されている。

種の保存法に基づく国内希少野生動植物種、国の天然記念物にも指定される等の保護対策が取られている。

レッドリスト - 絶滅のおそれのある野生生物（動植物）のリスト

レッドデータブック - レッドリストに基づき、より具体的な内容を記載したデータブック

3 参考～「北海道の野生動物復元プロジェクト：オオワシ・プログラム」

北海道に生息する希少動物であるオオワシやシマフクロウを、他の研究・活動機関と連携しながら円山動物園の飼育技術で繁殖させ、動物園施設で採食や飛行の訓練を行い、自然界に放鳥、野生復帰させる技術の確立に挑戦するもの。

これまでの取り組みとして、鷹匠の資格を持つ飼育員を、先進事例を持つアメリカに派遣。野生復帰研究の盛んなミネソタ大学猛禽（もうきん）センターや、カリフォルニアコンドルの野生復帰事業に取り組むサンディエゴ動物園で調査を行った。（平成 18 年 11 月）また、国内のオオワシの研究者や環境省とのネットワークの構築、ロシアの関係者との意見交換、協力要請を行い、実務者会議やシンポジウム開催に向けた準備を進めてきた。（平成 19 年度）

4 今後の予定

(1) ロシアとの野生復元に向けた実務者会議 = オオワシ野生復帰会議

シンポジウムに先立つ 6 月 22 日午後 1 時から動物園で開催。会議出席メンバーは 23 日のパネリストのほか、サハリンの動物園園長、オオワシ研究者、自然保護区の職員等。野生復帰計画の位置付けの確認、実務的な課題の整理と役割分担について議論する。（実務的な会議なので非公開とし、後日、会議録を公開する予定。）

(2) 繁殖・訓練用ケージの建設

今年度、設計と建設を予定。現在、設計の初期段階であり、詳細を公開できるところまでは至っていない。

問い合わせ先

環境局円山動物園経営管理課 鈴木

電話：621-1426